

子ども街づくり倶楽部 提言書



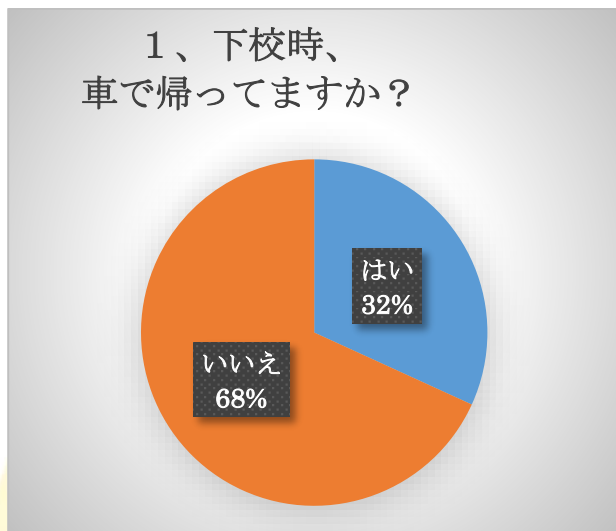
僕達は、「子供街づくり倶楽部」です。昨年（2014年）の1月から活動しています。きっかけは、昨年の10月の末に文化祭に掲示されていた、先輩たちの「子供街づくり倶楽部」の活動報告を見た時、「自分達も釜石市について勉強して、よりよい釜石市にしたい。」と考え、有志で集まりこの活動を始めました。

まず初めに、活動目標の設定をするために、復興庁の田村太郎さんからお話を聞きました。その結果、自分達の街をよくしたいのだから釜石市に思いを届けようと考えました。夏休みに入り、復興街づくり基本計画の「復興街づくり基本目標」と「12のスクラム」について学習しました。また、震災以降、釜石の商業者さんを応援している関西の大学生のみなさんとも意見や考えを交流し、自分達の考えをより深めていきました。活動を通して、復興途中である「今の釜石に自分達が足りない」と感じる事についてまとめる事にしました。そして、私達は、「街灯が少ない」・「避難用看板がない」・「運動場が少ない」の三本を柱に立て、ワークショップを行ったり、現場を見て回ったり、検証を行いました。検証を進めていくうちに、「自分達と同じ中学生は、今の釜石をどう思っているのだろう、そして10年後釜石がどうなっていてほしいのだろう、もっとたくさんの人に聞いて、考えを広げたい。」と考え、私達は「未来に繋げるアンケート」を大平中学生44名に2回行いました。アンケートで調べた結果、同級生も同じことを考えている事や、さらによりよい釜石市していきたいと考えていることを実感しました。このアンケートで出たみんなの思いもこの提言書にまとめました。

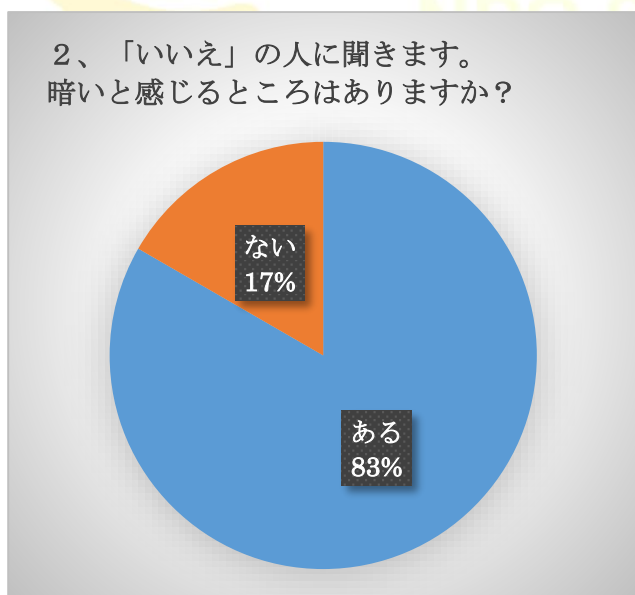
ぜひ、この提言書をこれからの釜石の街づくりに取り入れ、よりよい釜石にしてください。

1. 街灯について

私達は活動の中で震災後、不便になったことについて話し合いを行いました。その中で、私達の通学路（特に下平田地区）は空き地が多くなり、街灯が少ないという話が出ました。そこでみんなはどのように思っているのか私達が通っている大平中学校3年生、44名にアンケートを取りました。

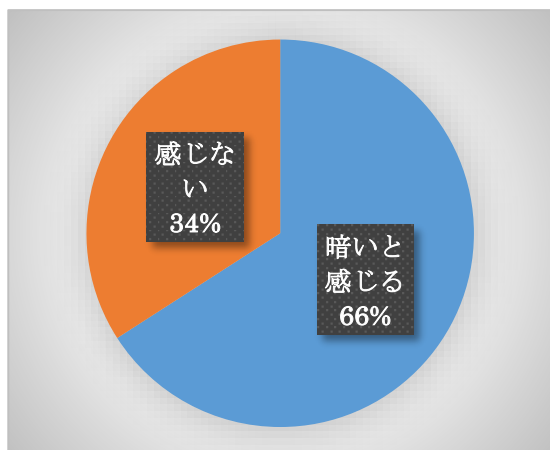


- 「はい」と答えた人の理由
- ・家が遠い 3人
 - ・外が暗いから 2人
 - ・受験勉強の時間をつくるため 1人
 - ・暗くて危ないから、最近物騒だから 1人
 - ・道が暗いから 1人
 - ・早く帰りたいから 1人
 - ・歩くのがだるい 2人
 - ・スクールバスだから 1人
 - ・バスか車でないと遠いから 1人
 - ・帰りが遅くなるから 1人



- ・通学路全部 8人
- ・学校からローソンまで 1人
- ・上平田ニュータウンのあたり 4人
- ・観音の階段 3人
- ・郵便局付近 2人
- ・鉄の歴史館付近 3人
- ・上平田コインランドリー側の通路 1人
- ・大平地区 1人
- ・国道沿い 1人
- ・最近をよく思う 1人
- ・最近暗くなるのが早い 1人
- ・あるが、時間が時間なのでしょうがない 1人

このアンケートの結果から、1の質問に対して「はい」と答えた人の理由の14人中4人が暗いと感じているのがわかります。また、2の質問の答えからは「いいえ」と答えた人の30人中25人が暗いと感じています。1と2をすべて足して計算すると44人中29人が暗いと感じています。



他にも、2の質問でした「暗いと感じるところがありますか？」に対してほとんどの人が通学路のことを書いています。これは通学路に街灯が少ないことを示しています。

現場の写真

【釜石・大槌地域産業育成センター前】



【平田漁協付近】



2. 看板について

私達は子ども街づくり倶楽部の中で震災後、不便なものについて話し合いを行ったとき、海の近くに看板がないのもし地震が来たとき、始めに逃げなければいけない人たちが逃げることができないのはおかしいという意見が出されました。さらに自分たちもよく海の近くで遊ぶので避難看板がないと不安という意見が出されました。そこで私達は海の近くの看板について調べました。

(1) 岩手県水産技術センター付近

- ・看板は3つ見つかったがどれも壊れていた
- ・内容は地元の人にはわかるが地域外の人にとってはわかりにくいものだった

【水産試験場前】



【平田漁協付近の防波堤】

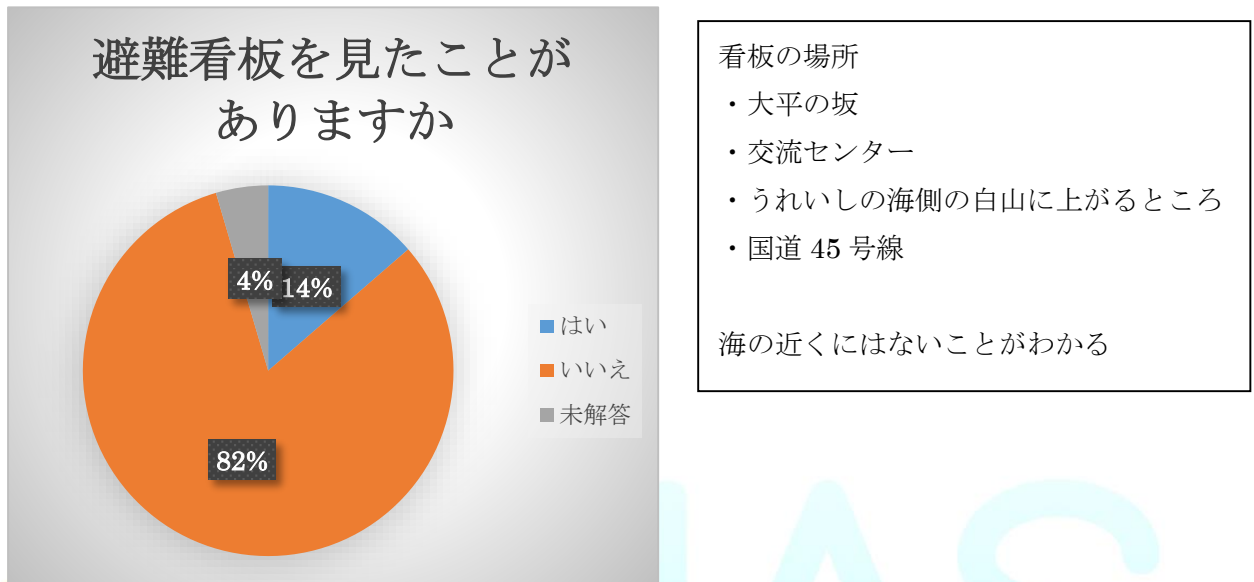


【平田漁協付近の水門付近】



(2) 大平中学校3年生へのアンケートについて

さらに私達が調べたほかに看板を見たことがあるか大平中学校3年生44名にアンケートをとりました。

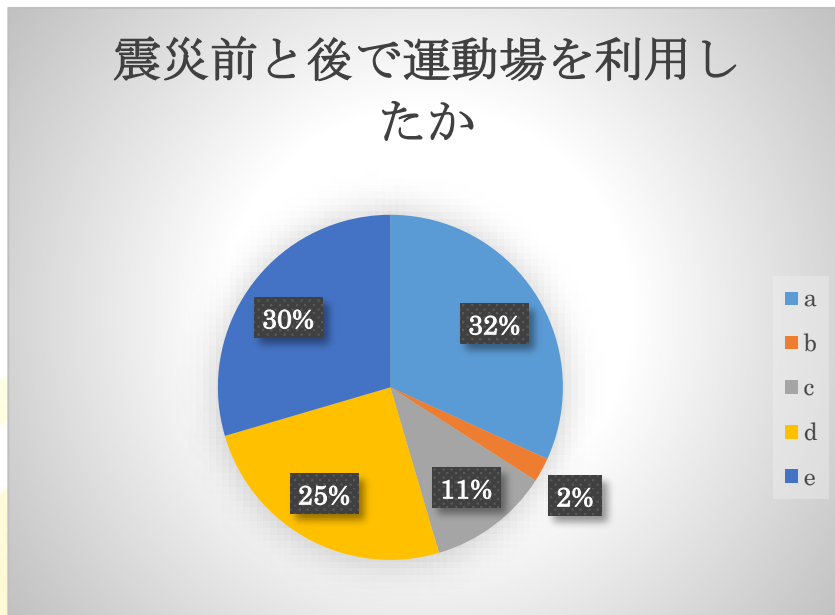


(3) まとめ

このことから現在私たちが目撃している看板の中で避難する人をしっかりと誘導できる効果がある看板はないといえることがわかります。

3. 運動場について

ワークショップの中震災後、運動場が少ないという話が出ました。そこでみんなはどのように思っているのか私達が通っている大平中学校3年生44名にアンケートをとりました。



- a. 震災前と震災後のどちらも利用している 14人
- b. 震災前は利用していないが、震災後は利用している 1人
- c. 震災前は利用していたが、震災後は利用しなくなった 5人
- d. 震災前も震災後も利用していない 11人
- e. 無回答 13人

計44人

アンケートの結果から少なくとも5人は震災後に運動場がなくなり運動が出来なくなり困っていることがわかります。

また、私達、子ども街づくり倶楽部では震災後使えなくなった身近な運動場を調べてみました。

(1) 仮設住宅が原因で使えなくなった運動場

1	旧岩手県立釜石商業高等学校グラウンド
2	平田運動公園
3	昭和園
4	上中島多目的グラウンド
5	松倉サッカー場

(2) 住宅地が原因で使えなくなった運動場

1	平田ニュータウンテニスコート
---	----------------

(3) 解体が原因で使えなくなった運動場

1	釜石市民体育館
---	---------

(4) がれき置き場となり使えなくなった運動場

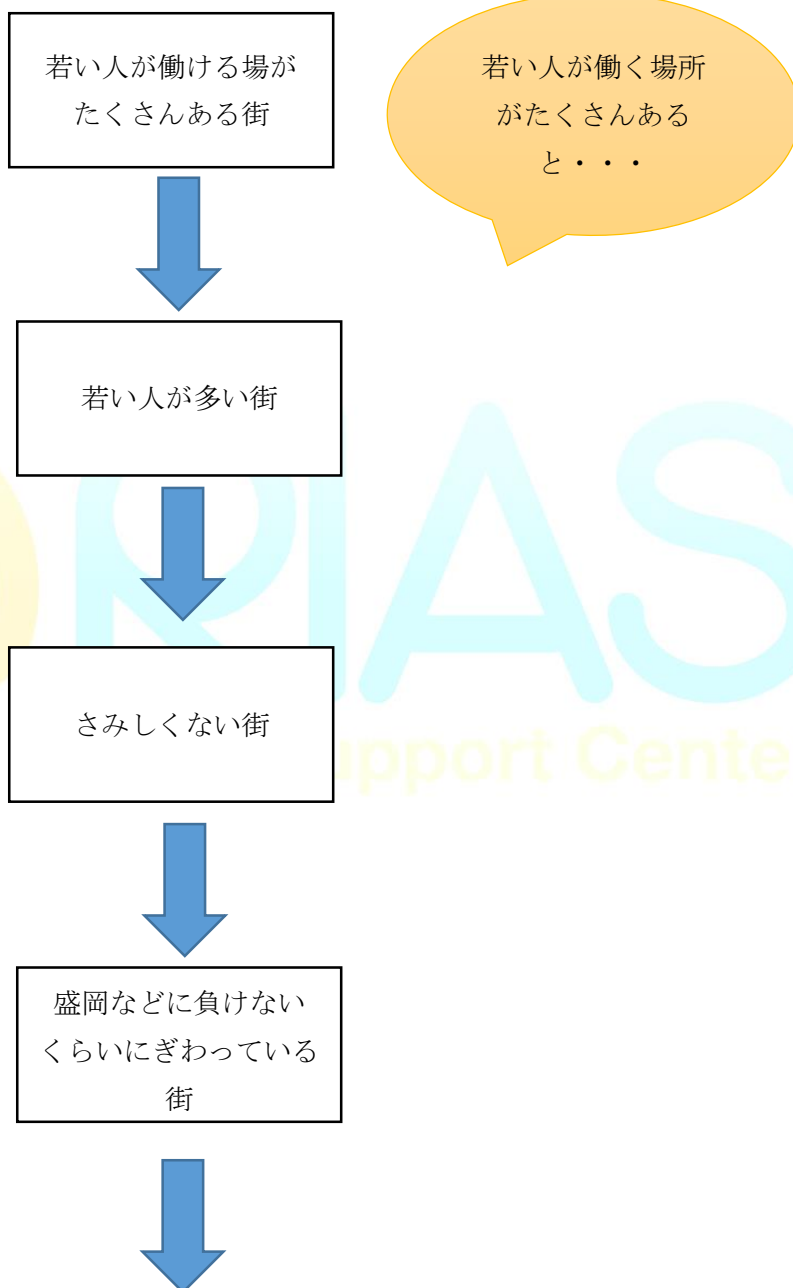
1	釜石市営唐丹本郷グラウンド
2	釜石市営唐丹片岸グラウンド

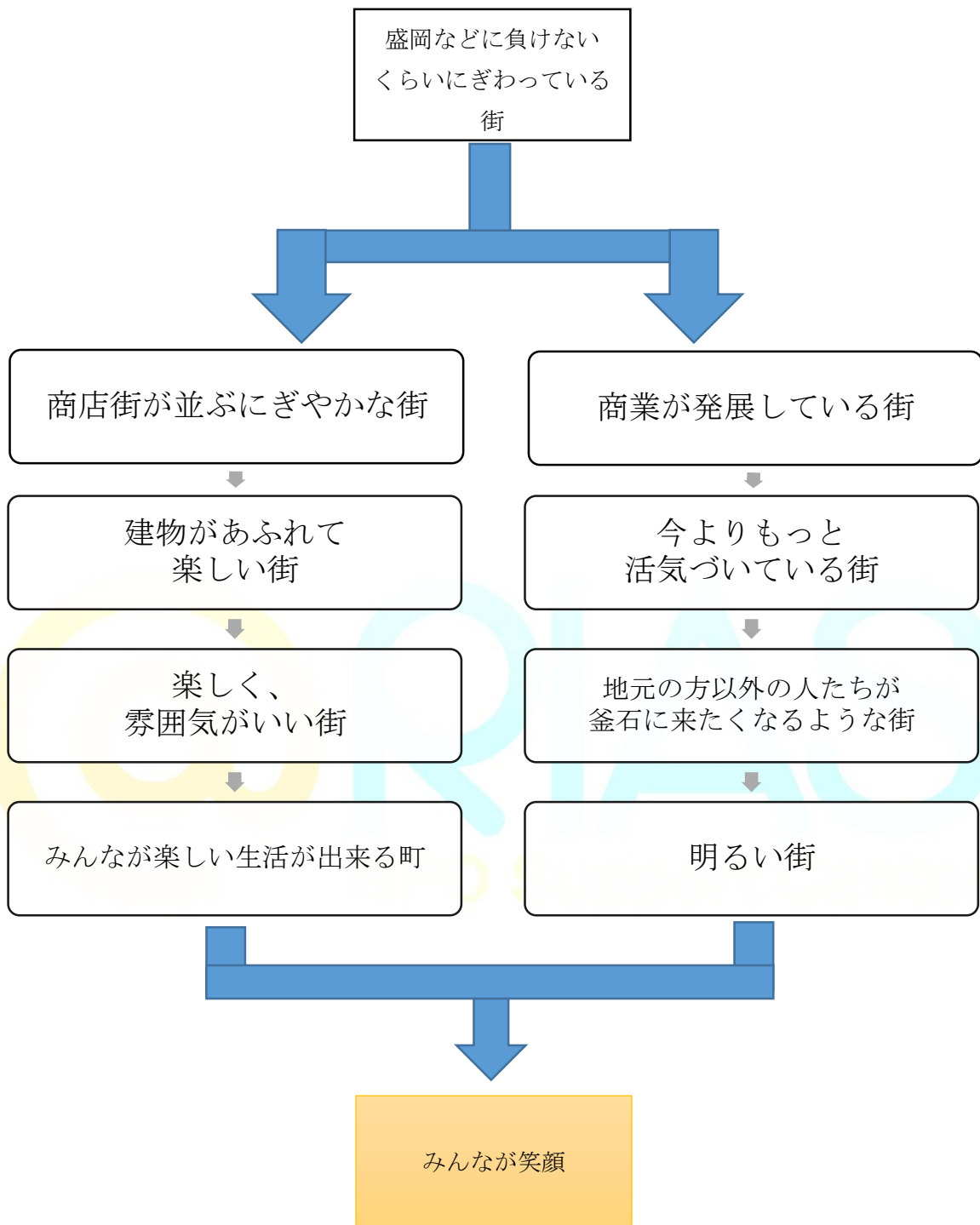
この結果を踏まえると、数えられるものだけで9つも使えなくなってしまった運動場があります。アンケートの5人もこれが原因で運動ができなくなったといえるでしょう。

アンケートの結果や調べた結果から、釜石では10個近くも運動場がなくなり、それにより運動が出来なくなり困っていることがわかります。それに困っているのは私達大平中生だけでなく子供からお年寄りまで数多くの釜石市民だと思います。ですから釜石にはもっと運動場が必要なのです。

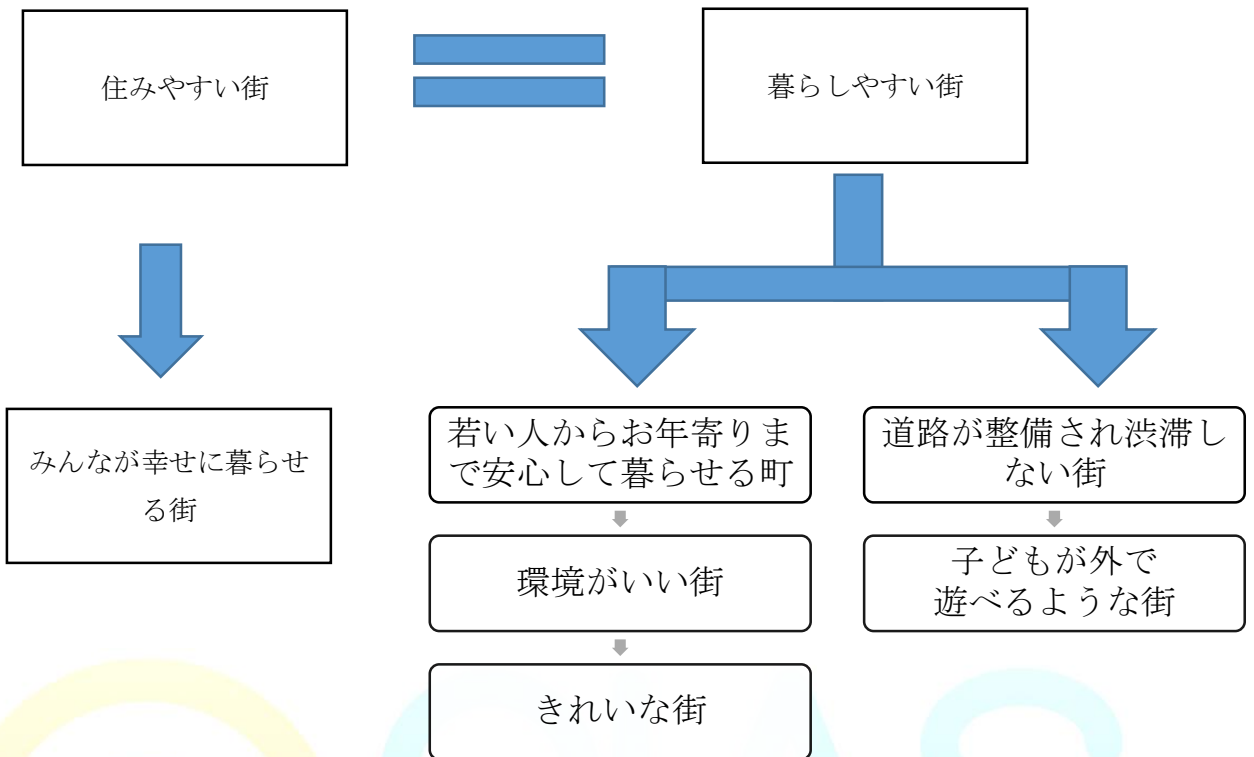
4.1 10年後の釜石について

私達はアンケートで10年後釜石がどのような街になってほしいかを聞きました。アンケートの結果では「住みやすい町」「環境がいい町」「人があふれるにぎやかな街」などの答えが多くありました。これらのアンケートで得た多くの回答を関連図にまとめました。





- 若い人が働ける場がたくさんある街からスタートすると若い人が多い街→人があふれるにぎやかな街など、人に関する街と商店街が並ぶにぎやかな街、商業が発展している街、建物があふれて楽しい街など商業や建物に関する街に結び付きました。また最後には「**みんなが笑顔**」になれることがわかりました。



- 住みやすい町からスタートすると道路など環境に関する街と結び付きました。このことから釜石が住みやすい町になるには環境が良くないといけないということがわかります。

単独

- 中学生や高校生が中心に活動できる街
- 自然（鹿や熊なども含めて）と人間がうまい具合に共存できるような街
- 震災前と同じような街

10年後釜石が発展するためには商店街が並び商業が発展し道路などの環境をよくするべきです。このことが実現すれば震災前以上のすばらしい釜石市になれるはずです。

私達は「子ども街づくり倶楽部」の活動を通して、今の釜石の状況や、これからの復興計画について深く知ることができました。

それを踏まえて私達が行った活動から三つの事を提言したいと思います。

まず初めに、通学路です。釜石は今、道路工事などを行い復旧活動で忙しいかと思えます。しかし、資料からも分かる様に、私達大平中学校の生徒だけでも、通学路が暗いと感じている人が多くいます。車で帰っている生徒の中にも、帰りが暗いから、という理由の人もいました。これからもたくさんの生徒が通学する道が暗いままでは、危険だと思えます。ですから、釜石の通学路に街灯を増やして下さい。

二つ目は避難看板です。資料にもある様に、私達が下平田近辺を歩いて調査をした結果、避難看板は目立たない所にあったり、破損していたり、その役割を果たしているものは数か所しかありませんでした。また、大平中学校3年生44名に聞いた結果、避難看板を見た事がない、という人も多くいました。私達釜石市民は、それぞれの避難場所を理解しているかもしれませんが、観光に来た方や市外から復旧工事に来ている方々が、避難場所を知らずに素早く対応するのは難しいのではないのでしょうか。市外から来ている人もいち早くにげられる様に、避難看板を設置して下さい。

三つ目は運動場についてです。私達が釜石の運動場について調べた結果、震災前使用していた運動場の多くが、震災後、仮設住宅などの土地に利用され、使用できなくなっていました。その結果、外で遊ぶ機会が少なくなり、遊ぶ場所が固定化している事が分かりました。もちろん、仮設住宅には多くの方が住んでいますし、市が近い将来、運動場を作る計画を立てている事も知りました。しかし、その運動場ができるまで、私達がのびのびと運動できる場所が少ないのは、釜石の子供達にとって厳しいと思います。そこで、一つでもいいので、子供たちがのびのびと運動できる場所を作して下さい。

最後に、私達はアンケートで、10年後、釜石はどうなっていてほしいか、という質問をしてみました。様々な願いを、僕達がまとめてみた結果、資料にもある様に、最終的に「みんなが笑顔でいられる町」というところに行きつきました。私達中学生も、釜石市がもっと良い町になってほしいと願っています。そのために、私達の提言を反映してほしいです。それが、私達「子ども街づくり倶楽部」の願いです。私達の提言について、計画に取り入れていただけるか、いただけないかの返事を 月 日までにいただけると幸いです。よろしくお願い致します。